



## 2024年9月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2024年2月14日

上場会社名 株式会社ピー・ピーシステムズ

上場取引所 東 福

コード番号 4447 URL <http://www.pbsystems.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 富田 和久

問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長 (氏名) 彌永 玲子 TEL 092-481-5669 (代表)

四半期報告書提出予定日 2024年2月14日 配当支払開始予定日 -

四半期決算補足説明資料作成の有無：有

四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2024年9月期第1四半期の業績（2023年10月1日～2023年12月31日）

#### (1) 経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年9月期第1四半期	603	15.8	70	-	69	-	46	-
2023年9月期第1四半期	520	20.0	△23	-	△31	-	△20	-

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年9月期第1四半期	7.21	7.10
2023年9月期第1四半期	△3.13	-

(注) 2023年9月期第1四半期累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

#### (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年9月期第1四半期	1,836	1,250	68.1
2023年9月期	1,980	1,261	63.7

(参考) 自己資本 2024年9月期第1四半期 1,250百万円 2023年9月期 1,261百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年9月期	-	0.00	-	0.00	0.00
2024年9月期	-	-	-	-	-
2024年9月期（予想）	-	0.00	-	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2024年9月期の業績予想（2023年10月1日～2024年9月30日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,200	10.3	347	15.1	346	17.0	237	15.3	37.41

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年9月期1Q	6,583,500株	2023年9月期	6,583,500株
② 期末自己株式数	2024年9月期1Q	200,095株	2023年9月期	111,095株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2024年9月期1Q	6,395,401株	2023年9月期1Q	6,399,391株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期貸借対照表 .....	4
(2) 四半期損益計算書 .....	6
第1四半期累計期間 .....	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項 .....	7
(継続企業の前提に関する注記) .....	7
(四半期キャッシュ・フロー計算書関係) .....	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	7
(セグメント情報等) .....	8
(重要な後発事象) .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期累計期間における国内経済は、緩やかな回復基調で推移しました。企業の設備投資は堅調に推移し、特に半導体関連産業の集積が進む九州の伸びが顕著となっています。

情報通信業界も好調に推移しています。DX(デジタルトランスフォーメーション)の進展や人手不足対策としての業務効率化需要を背景に、企業のクラウドへの投資意欲は高水準が続いています。

このような事業環境の中、当社は規模拡大に舵を切るファーストステップとして、基幹システムのクラウド化をはじめとする高品質の技術サービスの提供と高付加価値商品の販売に取り組みました。加えて、優良顧客の開拓と、ここ数年の懸案事項であった第4四半期偏重の損益構成の是正に注力するとともに、新たに拠点を開設し、組織体制を見直し、人財採用の拡大に向けた活動を強化しました。

優良顧客の開拓については、2024年1月の東京オフィス開設により、東京と九州に拠点を持つことを競争力のひとつとして打ち出せるようになり、今後、㈱ロキテクノに続いて「新生シリコンアイランド九州」への進出を目指す半導体サプライチェーン企業等への受注活動の持続性に目途がつかしました。

損益構成の是正については、営業利益が第1四半期累計期間としては上場来最高益となったことで着実な進捗が認められ、先行きに対する社内の意欲が一段と増してきています。

人財採用については、第1四半期に5名を中途採用し、新卒の採用予定者4名を含め、二桁に迫る成果が出ています。加えて2024年2月下旬にはエンジニアを集結させ、エンゲージメントの向上や採用・育成を図ることを目的とした「エンジニアハピタット」も福岡市内で稼働する予定となっています。これにより協力会社の確保の推進と合わせエンジニアのマンパワー不足を補い、技術力の一段の向上、ひいては生産力の増強に結びつく体制構築の最初のステップが完成する予定です。

その結果、当第1四半期累計期間における売上高は603,391千円(前年同期比15.8%増)、営業利益は70,082千円(前年同四半期は営業損失23,789千円)、経常利益は69,754千円(前年同四半期は経常損失31,033千円)、四半期純利益は46,095千円(前年同四半期は四半期純損失20,013千円)となりました。

セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

#### (セキュアクラウドシステム事業)

セキュアクラウドシステム事業においては、首都圏の製造業向けVDI構築やAI事業者向けクラウド基盤構築などの高い技術力を必要とする案件を中心に取り組み、プロジェクトを着実に実行しました。

九州では災害や障害への対策を充実した強靱なネットワークの構築を中堅企業向けに提供したことが売上増加に寄与しました。

受注活動については医療業界や半導体サプライチェーン企業の需要獲得を推進し、調剤薬局向けのクラウド基盤構築案件や、半導体製造関連製品のメーカー企業複数社の各種IT基盤構築案件を受注しました。

その結果、当第1四半期累計期間における売上高は598,537千円(前年同期比19.6%増)、セグメント利益は152,518千円(前年同期比351.0%増)となりました。

#### (エモーショナルシステム事業)

エモーショナルシステム事業においては、MetaWalkers®の販売拡大戦略の推進に取り組みました。売上についてはMetaWalkers®を活用した企業向けのイベントや、政令指定都市の防災イベントなどの比較的小型の案件が中心となりました。受注についてはコロナ禍明け後としては初となるMetaWalkers®本体の新規販売案件を自治体より受注し、事業成長に向けた一歩を踏み出しました。

企業向けメタバースについては12月にオープンした企業向けメタバース体験サイトを活用した新たな営業方式での受注活動を開始しました。

その結果、当第1四半期累計期間における売上高は4,854千円(前年同期比76.3%減)、セグメント損失は4,272千円(前年同四半期はセグメント利益5,306千円)となりました。

なお、全社営業損益は、各セグメントの営業損益の合計から、報告セグメントに分配していない全社費用78,163千円を差し引いた数値となっています。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

### (2) 財政状態に関する説明

#### (資産)

当第1四半期会計期間末の資産の部は、前事業年度末に比べて143,205千円減少し、1,836,974千円となりました。これは主に、受取手形、売掛金及び契約資産の減少(前事業年度末に比べて120,347千円の減少)、電子記録債権の増加(前事業年度末に比べて111,639千円の増加)、預け金の減少(前事業年度末に比べて57,243千円の減

少)、現金及び預金の減少(前事業年度末に比べて55,989千円の減少)、商品及び製品の減少(前事業年度末に比べて55,956千円の減少)等によるものであります。

(負債)

当第1四半期会計期間末の負債の部は、前事業年度末に比べて132,214千円減少し、586,617千円となりました。これは主に、買掛金の減少(前事業年度末に比べて82,744千円の減少)、未払法人税等の減少(前事業年度末に比べて43,782千円の減少)、未払費用の減少(前事業年度末に比べて26,030千円の減少)、賞与引当金の増加(前事業年度末に比べて16,724千円の増加)、前受金の増加(前事業年度末に比べて15,584千円の増加)等によるものであります。

(純資産)

当第1四半期会計期間末の純資産の部は、前事業年度末に比べて10,990千円減少し、1,250,357千円となりました。これは、自己株式の取得による57,086千円の減少、四半期純利益の計上により利益剰余金が46,095千円増加したことによるものであります。

### (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものです。今後、様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

## 2. 四半期財務諸表及び主な注記

### (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2023年9月30日)	当第1四半期会計期間 (2023年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,053,734	997,745
受取手形、売掛金及び契約資産	523,552	403,205
電子記録債権	3,603	115,242
商品及び製品	236,594	180,638
仕掛品	9,981	28,738
原材料及び貯蔵品	235	235
未収入金	40	50
前払費用	24,961	30,032
預け金	64,200	6,956
その他	—	3
流動資産合計	1,916,903	1,762,848
固定資産		
有形固定資産		
建物	946	946
減価償却累計額	△268	△284
建物(純額)	677	661
構築物	2,195	2,195
減価償却累計額	△1,922	△1,936
構築物(純額)	272	258
工具、器具及び備品	40,637	40,776
減価償却累計額	△34,000	△34,733
工具、器具及び備品(純額)	6,636	6,043
建設仮勘定	—	905
有形固定資産合計	7,586	7,869
無形固定資産		
ソフトウェア	20,811	26,206
ソフトウェア仮勘定	3,746	3,359
電話加入権	164	164
無形固定資産合計	24,722	29,731
投資その他の資産		
投資有価証券	2,858	2,771
出資金	30	30
敷金	8,730	21,368
差入保証金	1,019	1,019
長期前払費用	102	187
繰延税金資産	18,226	11,148
投資その他の資産合計	30,967	36,526
固定資産合計	63,276	74,126
資産合計	1,980,179	1,836,974

(単位：千円)

	前事業年度 (2023年9月30日)	当第1四半期会計期間 (2023年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	180,989	98,245
1年内返済予定の長期借入金	41,810	39,308
未払金	29,913	25,589
未払費用	54,587	28,556
未払法人税等	63,044	19,262
未払消費税等	17,873	25,311
前受金	175,484	191,068
預り金	10,761	17,034
賞与引当金	—	16,724
受注損失引当金	9,127	9,312
流動負債合計	583,591	470,413
固定負債		
長期借入金	24,281	15,278
長期前受金	110,959	100,925
固定負債合計	135,240	116,203
負債合計	718,832	586,617
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	350,264	350,264
資本剰余金		
資本準備金	350,264	350,264
資本剰余金合計	350,264	350,264
利益剰余金		
利益準備金	165	165
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	646,260	692,356
利益剰余金合計	646,425	692,521
自己株式	△85,606	△142,693
株主資本合計	1,261,347	1,250,357
純資産合計	1,261,347	1,250,357
負債純資産合計	1,980,179	1,836,974

(2) 四半期損益計算書  
(第1四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自 2022年10月1日 至 2022年12月31日)	当第1四半期累計期間 (自 2023年10月1日 至 2023年12月31日)
売上高	520,876	603,391
売上原価	437,384	400,891
売上総利益	83,492	202,499
販売費及び一般管理費	107,282	132,417
営業利益又は営業損失(△)	△23,789	70,082
営業外収益		
雑収入	257	39
営業外収益合計	257	39
営業外費用		
支払利息	187	100
保証料	44	44
上場関連費用	7,270	—
支払手数料	—	142
投資事業組合運用損	—	79
営業外費用合計	7,501	366
経常利益又は経常損失(△)	△31,033	69,754
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	△31,033	69,754
法人税、住民税及び事業税	154	16,580
法人税等調整額	△11,174	7,078
法人税等合計	△11,020	23,659
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△20,013	46,095

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第1四半期累計期間 (自 2022年10月1日 至 2022年12月31日)	当第1四半期累計期間 (自 2023年10月1日 至 2023年12月31日)
減価償却費	1,791千円	2,826千円

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2023年9月13日開催の取締役会決議に基づき、自己株式89,000株の取得を行いました。この結果、当第1四半期累計期間において自己株式が57,086千円増加し、当第1四半期会計期間末において自己株式が142,693千円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期累計期間(自 2022年10月1日 至 2022年12月31日)  
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期 損益計算書 計上額 (注) 2
	セキュアクラウド システム事業	エモーショナル システム事業	計		
売上高					
外部顧客への売上 高	500,388	20,488	520,876	—	520,876
セグメント間の内 部売上高又は振替 高	—	—	—	—	—
計	500,388	20,488	520,876	—	520,876
セグメント利益	33,814	5,306	39,120	△62,910	△23,789

- (注) 1. セグメント利益の調整額△62,910千円は、報告セグメントに分配していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。  
2. セグメント利益は、四半期損益計算書の営業損失と調整を行っております。

II 当第1四半期累計期間(自 2023年10月1日 至 2023年12月31日)  
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期 損益計算書 計上額 (注) 2
	セキュアクラウド システム事業	エモーショナル システム事業	計		
売上高					
外部顧客への売上 高	598,537	4,854	603,391	—	603,391
セグメント間の内 部売上高又は振替 高	—	—	—	—	—
計	598,537	4,854	603,391	—	603,391
セグメント利益又は 損失(△)	152,518	△4,272	148,245	△78,163	70,082

- (注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△78,163千円は、報告セグメントに分配していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。  
2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。